

# 昭和58年度 和歌山県国際文化功労賞

なか たに たけ よ  
中 谷 武 世

住 所：東京都世田谷区  
出 身 地：和歌山県和歌山市  
生 年：明治31年

## ◎業績及び経歴

東京大学の学生時代から民族運動に取り組み、中でも「日の会」という学生団体を通じ民族主義運動を行った。又、政治学の小野塚研究室において大学院生として政治学を専攻し、戦前は主としてインド独立運動に挺身する。

その後、法政大学教授、陸軍経理学校講師等を歴任し、戦時中は、衆議院議員として活躍する。

戦後は、日本民主党創立に協力し相談役となり、又、自由民主党憲法調査会委員となる。

岸総理大臣の東南アジア諸国歴訪(昭和35年)に説明役として随行し、更にインド、アラブ諸国を訪問する。その後たびたびアラブ諸国等を訪問し、国際文化交流の基礎をつくる。

とくに日本アラブ協会創立に奔走し、同会理事長、同会長となり、日本とアラブとの友好親善を深め、ライフワークとしてアラブ諸国の近代化の推進と、特にパレスチナ人の固有の権利の回復に力を尽くし、わが国におけるアラブ交流の道を開いた先覚者として知られる。

日本アラブ協会では、「アラビア講座」、「アラブ夏季大学」、「日本アラブ経済懇話会」などを設け、アラブ関係の企業や文化人等幾多の優秀な人材を輩出している。

アラブ中東戦争傷病者救恤運動を展開し、多量の医薬品及び多額の金品を送った。一方、昭和48年のオイルショック時に、日本の石油不足解消に尽力した。

昭和49年には、エジプト・アラブ共和国より、同国最高勲章「ウイサム・ゴムファリア・ドラガ

ール」を授与される。

## ■主要著書

「日本アラブ交流史」  
「民族主義の基本的研究」  
「戦時議会史」  
「アラブと日本」  
月刊「民族と政治」